教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 教育学科　　資格： 准教授　　氏名： 大畑　幸恵

研究分野	研究内容のキーワード
絵画，美術教育	絵画，ワークショップ，地域素材の活用
学位	最終学歴
修士（教育学）	東京学芸大学大学院　教育学研究科　美術教育専攻修士課程

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.オンデマンド教材の開発	2020年～現在	実習期間に配信するオンデマンド教材は、制作風景を撮影し、Illustrator、Photoshop、iMovieなどを活用して、わかりやすい授業動画を作成し、学生の興味関心の向上を図っている。
2.芝フェス	2017年～2019年	３ゼミ４ゼミ合同でアートワークショップを企画実施。幼児～小学生までが対象で、1日で約100人の子どもが参加。
3.朝小サマースクール	2016年,2017年	3・4ゼミ合同でアートワークショップを企画実施。立体工作の内容で、幼児~小学生までが対象で、1日で約80人の子どもが参加。
4.西宮市　野外アートフェスティバル	2015年～現在	西宮市 野外アートフェスティバル 3・4ゼミ合同で、幼児~小学生対象のアートワークショップを企画実施。これまでの制作活動や教育実習での体験を活かし、「参加者がイメージ豊かに制作する方法」を共に考え、実施している。ゼミで協力すること、いろいろな発想のもと参加者ひとりひとりと交流する中での学びは、将来の教育者・保育者としての資質につながる力を身につけることとなる。（2020-21年は不開催）
5.学校教育館設備を活かした取り組み	2015年4月～現在	教室外のショーケースや教育館１Fギャラリーにて、授業作品の展示や展覧会企画をしている。学生の授業外における学習効果促進や、学年を超えた学びの共有を目的に実施している。 また、指導法の授業では展示する事の意義や効果について触れ、教育現場での展示の重要性を伝えている。
2 作成した教科書、教材		
1.（教材）地域素材を用いた表現活動	2014年4月～現在	図画工作の授業（大阪教育大学、武庫川女子大学）において、地域の土を活用した教材を作成し、小学生が自然環境への関心を高め、土から多様な発想を引き出すことができる授業案を立てて実施している。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.教員免許状更新講習講師	2021年	図画工作の基本と創造的な表現～絵画制作・アニメーション～
2.教員免許状更新講習講師	2016年～2019年	図画工作の基本と創造的な表現～立体・絵画制作～
4 その他		
1.キャリア対策委員	2020年4月～2022年3月	
2.SMU文化交流2019	2019年5月	セントマーチンス大学からの来日者を学生が中心となってサポートできるよう、新規に国際交流ボランティアの仕組みをつくり、文化交流を行った。
3.SMU海外研修プログラム	2018年８月	教育学科が開設するプログラムの担当として、事前指導～引率を担当した。
4.展示「西宮ストリートギャラリー事業」　西宮市からの依頼	2018年６月,2019年	大教、短教の作品を西宮市内で展示。札場筋沿いの各金融機関（現在は三井住友銀行・三菱東京ＵＦＪ銀行・りそな銀行）のショーウィンドウにて。
5.附属高校出張講義	2018年2月	
6.附属高校出張講義	2017年2月3日	武庫川女子大学附属高校2年生を対象に大学講義体験授業（幼児～小学生を想定した図画工作）の講師を務めた。2コマ(計約100人)
7.学生委員	2016年9月～2018年3月	2016年9月から大学、2017年より短大での学生委員。幹事会や幹事懇談会のフォローのほか、学科内で初めて

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
8.ユースホステル部　顧問	2016年4月～現在	のイベント企画「クリスマスツリーをつくろう」や幹事主催の「実習前懇談会」などを実施。 顧問として近隣に住む子どもたちとのキャンプ引率や保護者説明会などのフォローをしている。 2017年度は（公財）兵庫県青少年本部「ひょうごっ子・ふるさと塾」助成を受け、よりひろく地域交流や自然体験ができるキャンプや講演会を企画。顧問として企画指導や印刷物のデザイン等を行った。（申請代表：ユースホステル協会）
9.高校出張授業	2015年12月1日	兵庫県立三田西陵高等学校 教育現場での図画工作の一例について制作をしながら理解を深めた

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.中学校教諭１種免許（美術） 2.学芸員資格 3.高等学校教諭１種免許（美術,工芸） 4.中学校教諭専修免許（美術） 5.高等学校教諭専修免許（美術）		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1.地域連携『鳴尾小学校での壁画プロジェクト』	2023年5月～12月	３年ゼミ生の９名を中心に実施。小学校の環境を踏まえ、子どもたちのアイデアを集め共に制作する方法を検討。9月に2回の授業を実施した。10月以降は「放課後壁画教室」として、子どもたちとともに壁画制作を行なった。 （鳴尾小学校創立150周年記念事業）
2.教員への実技研修　尼崎市からの依頼	2018年8月28日	修学前教育研修講座（実技）尼崎市立教育総合センターにて、２講座実施。
3.ひょうご理系女子未来塾体験授業　武庫川女子大学女性研究者支援センターからの依頼	2018年5月27日	算数や理科など他教科との関連性をもたせたアートワークショップを実施。小学生20人×２クラス
4.絵本小屋アートプロジェクトの企画実施　@芦屋浜高層団地集会所	2018年4月～2019年３月	快適に暮らす住環境の再生をめざし、多世代が相互に関わるコミュニティデザインの一環として、地域に残る絵本を保存する小屋を住民とともに作り上げるアートプロジェクトを企画実施。どのような絵本小屋になるかを子供、大人、専門家を交えてワークショップ形式でイメージの共有を図り、設営につなげた。 平成 30年度大学生による地域連携推進支援事業「 高層団地の集会所と広場を拠点とした多世代交流 スペースの提案」内の活動として参加。兵庫県住宅供給公社と住民団体とそれを支援する自治体、管理業団体、NPO法人、専門家組織、デザイン研究室(鎌田)と大学生が中心となって住民参加型ワークショップを企画・運営している。
5.地域連携『またあしたプロジェクト』	2018年1月～３月	芦屋浜域学連携として、生活環境学科・鎌田誠史准教授が中心となっている「またあしたプロジェクト」の中で、アートワークショップを企画、実施。芦屋浜高層団地のコミュニティづくりの一躍をになうワークショップを提案。子ども、保護者、シニアの方など多世代が主体的に活動できる機会を生み出し、参加学生の教育にもつなげた。活動の様子はjcomにて紹介された。
6.アートワークショップの事例紹介	2015年	書籍「アートプロジェクト・エッジ～拡張する環境芸術のフィールド」にて、谷口文保氏が私が実施した事例を挙げ、ワークショップの可能性について言及してい

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
		る。（東方出版,2015年発行,ISBN978-4-86249-249-4C0070）
7.作品紹介	2013年	美術手帖「瀬戸内国際芸術祭2013公式ガイドブック」
8.地域連携	2011年12月11日	カキ殻で白い絵をかこう 会場：福山市役所北部支所 主催：福山市北部生涯学習センター
9.公開講座	2011年10月22日	はじめる絵画講座②～いつもとちがうドローイング～ 担当：渋谷清、大畑幸恵 会場：福山市立女子短期大学
10.公開講座	2011年9月23日	地域素材を用いたアート・ワークショップ カキ殻で白い絵をかこう 会場：福山市立女子短期大学
11.公開講座	2011年7月24日31日	アート・ワークショップ　私のタッチをみつけよう 会場：福山市立女子短期大学
12.地域連携	2011年11月26日,12月4日	広島県府中市の地域資材を活用した こどもとおとないっしょに楽しくアートワークショップ 講座企画・実施：大畑幸恵 主催：財団法人　府中市まちづくり振興公社 運営：マネジメントオフィス原田 協力：高橋工芸株式会社，NPO法人府中ノアンテナ
13.公開講座	2010年11月12日,11月19日	はじめる絵画講座①～試して・描いて・ドローイング～ 担当：渋谷清、大畑幸恵 会場：福山市立女子短期大学

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.『教育美術』	共	2023年7月	（公財）教育美術振興会	環境を”いかす・つくる”アート特集において、筆者は土や貝殻などその土地の素材で絵の具を作り、表現活動につなげる実践内容を記述した。（執筆部分は全４ページ）
2.三つの白 沙弥島アートプロジェクト	共	2013年10月	神戸芸術工科大学	瀬戸内国際芸術祭2013に参加した神戸芸術工科大学の教員７名がまとめた本で、筆者は作品制作の概要と、地元の幼児・小学生を対象としたとアートワークショップの実施及び考察について執筆した。後者では、開催地の海辺で貝殻をひろい絵の具にして描く企画と、地域産業の塩を使って工作をする企画を立て、地元の幼児・児童を呼び、大学生とともに助言や指導を行ったことを述べた。（pp27～32,pp58～59） 著者：佐久間華,戸矢崎満雄，大畑幸恵 ,林健太郎,藤本修三,藤山哲朗，齊木崇人
2 学位論文				
1.クリムト作品にみる表現の方法および視点の多様性 ―日本美術の影響を中心とした「平面性」と「工芸性」についての考察―	単		東京学芸大学大学院	クリムトがなぜ日本美術に興味をしめしたのか，どのような点に影響をうけたのかを,「日本的」・「平面的」・「工芸的」というキーワードで考察し，クリムト絵画の変化の段階を四つに分類した。中でも彼の作品に現れる「平面性」と「工芸性」は，彼が求める表現の方向として重要な要素であったと位置づけた。
3 学術論文				
1.「絵に表す」表現と鑑賞の一体的な指導法についての一考察 - 絵本と作例鑑賞から広がる表現の多様性 -（査読付）	単	2023年3月	教育学研究論集	図画工作科の内容のうち，水彩絵の具を使った絵画表現に苦手意識を持つ大学生が複数存在する。小学生においては，発達段階の中で再現的な表現につまずきが発生しやすい傾向にある。そこで本稿では，小学校教師を目指す大学3年生に対し，「絵に表す」一連の活動の中で，表現と鑑賞の一体的な指導法について考察を行った。導入には選定した絵本の読み 聞かせをするとともに，制作前に作例の鑑賞を行い，多角的なものの見方を深めた。制作時には表現の幅を持たせることの意義を検討した。最後に，学習指導要領を踏まえて指導につなげていく教育実践とアンケートの分析結果をまとめた。
2.貝殻を用いた表現の	単	2023年	環境芸術学会	浜辺に漂着したさまざまな貝殻を活用したワークショップ実践例を

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
展開　-貝殻を用いる意義とワークショップの可能性-　（査読付）				もとに、参加者がアートや海についてどのような思いを抱いたかを検証する。さらに、現代アートで自然物を扱う作家の意図と、筆者が貝殻を用いる意図を比較し、その意義を明らかにする。さらに、海をめぐって世界中で取り組まれている海洋教育についての論考をまとめるとともに、筆者が着目した市場で廃棄される貝殻の活用法を探る。
3.2020年度コロナ禍における教育学部教科教育担当者の授業実践報告	共	2022年3月	教育学研究論集	コロナ禍での各科目の授業方法についての論文。筆者は図画工作科教育法について執筆した。
4.貝殻を用いた表現の展開　-さまざまな貝殻による絵画とインスタレーション-　（査読付）	単	2021年5月	環境芸術学会	本稿では貝殻を用いた表現の展開について、はじめに筆者が貝殻に着目した経緯を述べ、次章からは複数の貝殻での制作、および展示方法を論述し、その表現の可能性と課題を分析する。
5.地域素材を活用した絵画表現 ―土絵の具による教材研究―　（査読付）	単	2021年3月	学校教育センター紀要	本稿では、土絵の具で得られる発想の広がりと、表現欲求を高める指導方法を探ることを研究目的とし、教育学科の学生を対象に授業内で土採取と絵の具作りを行ったのち絵画表現を試み、その結果を考察する。
6.創造性を高めるスケッチの一考察（査読付）	単	2012年3月	福山市立女子短期大学研究教育公開センター年報９号	スケッチは手早く描くもので、幼児や児童の表現のみならず、保育者や教師が環境構成を検討したり図式でイメージを伝えたりするなど様々な場面で役にたつ。スケッチには「モノを観察して描く力」と「イメージ豊かに描く力」が含まれる。本論文では、その二つの力を身につけるための題材を提案・実施し、検証を行った。キーワード: 創造的 スケッチ,観察力,イメージを発想する力,指導法（pp39～45）
7.壁面装飾における造形表現とその展開（査読付）	単	2012年3月	福山市立女子短期大学研究教育公開センター年報９号	基礎力がついた教育系学科上級生に対する授業内容 についての考察。教材開発と壁面装飾への展開を通して、現場で必要となる一連のアプローチ方法を学習する課題を提案・実践した。ワークシートと作品 をもとに、上級学年の表現力の様相と課題について論述。キーワード:造形表現,壁面装飾,グループ制作,指導法 （pp43～48）
8.地域素材を活用した絵画表現 －カキ殻の表現素材としての有効性と素材学習－（査読付）	単	2012年2月	福山市立女子短期大学紀要第39号	地域の素材を活用して絵画表現に生かすという試みを公開講座(こども~大人対象)と授業で実施し，教材開発にむけた実践研究やアンケートをもとに展開方法を考察した。これにより地域素材への関心によって表現意欲が高まり、鑑賞にも反映されることがわかった。また近年「地域や自然」と「教育」と の関係の重要性が指摘されており、この教材によっ て「表現」「鑑賞」「地域学習」が結びつけられる ことを論述した。キーワード:絵画表現,地域素材, カキ殻,鑑賞,地域学習（pp47～51）
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
２．学会発表				
1.壁画制作で育むコミュニティスペース－海の色を用いた美術館アートプロジェクトの試み－	単	2014年10月5日	環境芸術学会 主催：群馬県立女子大学	口頭発表 受託研究として行った美術館壁画プロジェクト。公共施設への壁画制作にあたり、念頭においた３点〈美術館周辺の環境を意識する〉〈公共性をふまえた図 案〉〈ワークショップで進めるにふさわしい制作方法 かつ長期保存可能〉であること。これらを如何に検討して、参加型で「わたしたちの壁画」をつくっていったのかを発表。
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
1.「grid」６点	単	2024年12月	水戸市民会館	グループ展。絵画６点を出品。 910mm×652mm ／455mm×380mm ／273mm×273mm／240mm×240mm／190mm×240mm（２点） 茨城県の霞ヶ浦で淡水真珠養殖されるヒレイケチョウガイに着目。廃棄される貝殻から絵の具を作り、表現した。
2.「無題」３点	単	2023年12月	オリエ　アート・ギャラリー（東	作家１２名によるグループ展。 絵画F8号（h380×w455mm）2点と、立体（h35×w120×d35mm）1点を

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
			京）	展示。アコヤガイ、あわび、タイラギなど、養殖や市場で人の手が介入した後に残った廃棄される貝殻を使って制作した。
3.航路-Distance-	単	2019年9月13日～11月24日	ROKKO Meets Art（会場：六甲枝垂れ）	アコヤガイのカケラを用いて船をつくり、六甲枝垂れの建物の３箇所に展開したインスタレーション。砂利を海に見立てたり、水辺に船を浮かべて風とともに動いたりする。 海は広大で、優しげであり、荒々しくもあり、行き交う船々とともに人生のように喩えられる。展示会場にある小さな貝のカケラを集めた船１叟ずつが繊細に輝き、海と人のつながりや、自分の路を感じさせる作品である。
4.航路-destination-	単	2017年9月16日～10月15日	かもめりあ(神戸)	港都KOBE芸術祭コラボレーション展　推薦出品。神戸開港150周年を記念した展覧会にて、あさご芸術の森美術館から推薦をうけ絵画、立体等を展示。会場は海に面しており、船の街、海の産物「真珠」で栄えた街を手掛かりに、アコヤガイを用いて制作。貝殻でできた船と、目の前にひろがる海景色を重ねてみながら、イメージが喚起される展示である。
5.航路	単	2017年7月14日～24日	GALLERY301 （神戸）	絵画を中心とした個展。アコヤガイで絵具を作って描いた絵画や立体を展示。（計１６点）
6.カイソウ -Kobe-	単	2015年11月20日～30日	GALLERY301 （神戸）	絵画を中心とした個展。使用素材はアコヤガイ。 神戸の海岸散策や町の人への聞き取りからひろいあげたイメージを、「真珠の街・神戸」を主軸にアコヤガイの貝殻をつかって表現した。
7.あさごの土で絵をかこう！		2014年7月27日	あさご芸術の森美術館（兵庫）	「アートDE遊ぼう！」にてワークショップ企画・実施
8.壁画「青いワルツ」	単	2014年	坂出市民美術館	瀬戸内の海の色をサンプリングし、公共空間を明るくつつむ壁画制作を行った。制作にあたり大学生が地域に入って活動する流れをつくり、現地の人も関わって完成する約１年間の長期プロジェクトで壁画を描いた。
9.塩の貝殻に想いをこめよう～坂出親子おてつ隊の芸術祭フィナーレ～	単	2013年10月26日,11月4日	坂出市海の家	「塩の貝殻をつくろう」では地元の海岸で採取した貝殻で型をつくり、坂出特産の塩を用いて「塩の貝殻」をつくった。その後「塩の貝殻を海にかえそう」という日に、出来上がった「塩の貝殻」を型からとりだし、海への想いを紙に記して塩の貝殻とともに海にかえした。　芸術祭に携わった親子が、地元の特徴や良さを実感できるワークショップを企画・実施した。
10.瀬戸内国際芸術祭2013　『沙弥島アートプロジェクト』		2013年3月20日～4月20日	旧沙弥島小中学校（香川）	廃校となった教室に絵画などを展示。（沙弥島アートプロジェクト by KDU内で、１教室の展示を担当）　絵画の他に黒板に貝殻のディスプレイなどの展示を行う。 作品の一部はあさご芸術の森美術館（兵庫)が企画するグループ展にも出展。2013年7月20日～9月8日。　地元のこどもたちやボランティアの大学生とワークショップで完成させた作品「真夏のエノキ」は別会場に展示した。
11.カイソウ -minomi-	単	2012年11月	space461（広島）	個展　絵画「カイソウ -minomi-」含む7点
12.貝殻を拾おう／貝殻で絵具をつくろう／貝殻絵具で絵を描こう	単	2012年9月19日,11月10日,12月9日	旧沙弥小中学校等	瀬戸内国際芸術祭2013出展と関連したワークショップの企画・実施。本ワークショップは出展する作品と同じように貝殻を拾い、絵の具にして描くことで、海をテーマとする作品の背景をより身近に感じるためのもの。大学生や地元ボランティア、市役所の方々と協力して実施。ワークショップ作品は瀬戸内国際芸術祭の会場で展示ののち、現在は海の家に展示している。
13.ワークショップ	単	2012年5月27日	あさご芸術の森美術館	同時開催の企画展に関連して
14.ギャラリートーク	単	2012年5月19日	あさご芸術の森美術館	同時開催の企画展に関連して
15.マダラダマ展	単	2012年3月	藍画廊（東京	個展　絵画「サバイバー」含む14点
16.マダラダマ展	単	2012年4月28日～6月3日	あさご芸術の森美術館	美術館企画展（個展）　絵画「From your viewpoint」含む15点
17.マダラダマVol.3展	単	2011年3月	space４６１（広島）	個展　油彩「マダラダマ#7」含む 13点
18.マダラダマVol.２展	単	2010年5月	space４６１（広島）	個展　油彩「マダラダマ#5」含む7点
19.「マダラダマ#5」		2010年1月	豊田市美術館（愛	Toyota art competition　入賞入選作品の展覧会（油彩画を出品）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
20.「しりたいことはすぐには見えてこない／garden 03」		2009年10月	知）巡回：大阪府立現代美術センター（大阪）等	美浜美術展　入選入賞作品の展覧会　（油彩画を出品）
21.マダラダマVol.1展	単	2009年4月	space４６１（広島）	個展　油彩「マダラダマI」含む11点
22.「マダラダマI」		2008年11月	あさご芸術の森美術館（兵庫）	あさご芸術の森大賞展　入賞作品展　（油彩画を出品）
23.「マダラダマ」		2008年７月	朝日アートギャラリー（東京）	グループ展「響展　vol.2」に油彩画２点出品
24.「白になる呪文」含む2点		2006年	朝日アートギャラリー（東京）	響展 vol.1　　作家8名によるグループ 展
25.「カケラノカケラ」含む6点	共	2006年	GV Art centre（ミャンマー）	tama tama展　　ミャンマーの首都ヤンゴン(当時)のギャラリーで開催された4人展(日本人3名,ミャンマー人1名)。
26.「乙女のいたづら」		2004年12月	ART BOX GALLERY（東京）	ART BOX大賞展受賞記念展　「乙女のいたづら」含む７点
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.航路（アコヤガイを用いた作品集）	単	2022年12月	環境芸術学会 29号	これまで行ってきたアコヤガイを用いた作品について、方法やテーマについての解説を行った。（pp64-65）
2.報告発表	単	2019年11月17日	地域環境アートワークショップ研究部会報告	六甲ミーツアートに展示した自身の作品について、設置する環境にまつわる制作意図や設営方法について報告。その後、六甲山頂における環境芸術の展開方法と課題について、参加した研究者とともにディスカッションを行った。
3.報告発表	単	2015年	地域環境アートワークショップ研究部会報告（神戸芸術工科大学）	「壁画制作で育むコミュニティスペース　海の色を用いた美術アートプロジェクトの試み」と題し、特に壁画制作の裏側のエピソードや問題点を報告。その後、アートワークショップの現場における課題について、参加した研究者とともにディスカッションを行った。
4.(実践報告)アート・ワークショップ　―私のタッチをみつけようー	単	2012年3月	福山市立女子短期大学研究教育公開センター年報９号	公開講座報告書として執筆。 自分のタッチを見つけることを目的とした講座である。絵をかくこと，見ることの楽しみの一つは，制作者たちのタッチの違いを感じることにある。その違いは，作者が表現のために意図したものもあれば，幼児の表現のように本能的なものもある。絵具を使う手の動きは各々に特徴があり，それがその人らしい表現として大切な要素となることを実感できる講座を目指して実施し、記述した。（pp102）
5.(実践報告)地域素材を用いたアート･ワークショップ ―カキ殻で白い絵をかこう―	単	2012年3月	福山市立女子短期大学研究教育公開センター年報９号	公開講座報告書として執筆。 広島県の海辺に近い大学にて、身近なカキ殻を取り上げ，それを自分たちの手で画材へと作りかえ使用することを通して，表現の楽しさと地域の魅力を再発見することを目的とした講座の実施報告である。小学生～大人まで参加し、取り組みの様子を記している。（pp106）
６．研究費の取得状況				
1.壁画制作によるコミュニティスペースの創出　―坂出市民美術館アートプロジェクトをとおして―	単	2014年4月15～9月30日	瀬戸内国際芸術祭坂出市実行委員会	受託研究（代表） 坂出市民美術館と図書館の間にある壁に壁画をかくプロジェクト。場所との関係性をふまえて企画し、市民や大学生とともに制作。
2.アートプロジェクトによる地域・建築リノベーショ ンの継続発展性の研究	共	2014年	学内共同研究費(神戸芸術工科大学)	◎藤山哲朗,戸矢崎満雄,谷口文保，大畑幸 恵，中村卓,かわいひろゆき,さくまはな
3.アートプロジェクトによるコミュニティ生成―瀬戸内 国際芸術祭2013 ―沙弥島アートプロジェクトの実践に よる研究―	共	2013年	学内共同研究費(神戸芸術工科大学)	◎戸矢崎満雄,藤山哲朗，藤本修三，佐久間 華，大畑幸恵,林健太郎

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
６．研究費の取得状況				
4.瀬戸内国際芸術祭 2013沙弥島でのアート展開	共	2012年～ 2013年	アートフロント ギャラリー 瀬戸内国際芸術祭 運営事務局	受託研究（分担） メンバー： 戸矢崎満雄◎,藤山哲朗, 藤本修三,佐久間華, 大畑幸恵,林健太郎

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2014年～現在	環境芸術学会
2.2013年～2015年	あさご芸術の森美術館 「アートdeあそぼう」インストラクター